

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年3月15日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691400115
法人名	医療法人浩愛会
事業所名	グループホームまごころ
所在地	鹿児島県垂水市錦江町1-238 (電話) 0994-32-6676
自己評価作成日	令和4年2月20日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NP0さつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年3月11日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念 「まごころ」「寄り添い」「支え合い」を職員で共有し、日々のケアに努めている。入居者様の話を良く聴き、入居者様の感情に触れ、入居者様との関わりの中で、「お互い様」の気持ちを大切に、入居者様と共に過ごしています。入居者様の言葉に出来ない思いや、伝えられない思いを職員で話し合い、少しでも自己実現に近づける様に職員同士で報告・連絡・相談ができるように心がけています。また、職員のスキルアップを目指し、外部の研修も積極的に参加して、ケア会議で伝達研修も行っています。コロナ禍のため、地域との交流や屋外の活動は自粛しているが、敷地内の畑や花壇の手入れなど取り組んでいます。今、出来る事を考え、季節の行事や誕生日等のイベントを工夫し大切にしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、垂水市の中心地の海沿いに、同法人の小規模多機能ホームや「グループホームひまわり苑」に隣接して平成18年に開設されている。周辺にはスーパーや個人住宅が立ち並び少し離れて市役所や小・中学校、高校、郵便局、金融機関、商店等があり、利便性は良い。法人母体の医療機関も車で10分程で、日常的に連携を密にして利用者の診療や健康の維持に努めており、利用者や家族の安心に繋がっている。また隣接の事業所とは日頃から情報を共有し、緊急時や災害時の協力体制を築いている。

管理者及び職員は、地域との交流を大切に取り組みしており、地域のイベントや浜掃除等に参加し、ボランティアや訪問美容、野菜の差し入れ等、円滑に交流する関係を築いているが、コロナ禍に配慮して現在は買い物やイベントへの参加、ボランティアの受け入れ、ホームの行事での地域の人との交流は控えている。高齢者福祉や認知症ケアに関する住民からの相談には専門性を活かして助言し、認知症カフェを開設して認知症ケアや詐欺被害の防止の啓蒙啓発に努めている。

理念に「まごころ」「寄り添い」「支え合い」を掲げ、利用者の尊厳や人格を大切に、利用者の思いに寄り添ったケアに日々取り組んでいる。認知症を患っても、その人らしく、笑顔と生きがいのある生活となるように、意向に沿って趣味や家事の取り組みを個別に支援するなど、利用者主体のケアに努めている。

管理者及び職員は、気軽に意見を言い合える信頼関係、協力体制の構築に努めており、日頃の業務の中やケア会議等で意向や要望等を出し合い、また個人面談も行って、業務やサービスの改善を図っている。管理者は、スキルアップを図る研修の実施やケアに関する助言・指導に取り組み、勤務シフトには有給休暇の取得や個人的事情にも配慮するなど、働きやすい職場環境の整備に努めている。外部研修の受講料や資格取得時の経費についても法人の助成制度が整備されて職員のモチベーションに繋がっており、定着率も良い。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は、日々のケアで方向性が違ったり、迷ったときに振り返る基になることを職員で共有できるように話し合っている。	理念に「まごころ」「寄り添い」「支え合い」を掲げ、目につきやすい玄関やホールに掲示し、また、パンフレットにも記載して周知を図っている。日頃のケアの中やケア会議等で振り返りや意見交換、認識の確認等を行って、理念に添った利用者主体の支援の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も新型コロナウイルス感染予防対策のため地域との交流は自粛中である。民生委員の方が定期的に窓越しではあるが様子を見に来てくれる。	開設以来、地域との交流に取り組んでおり、地域のイベントや清掃作業に積極的に参加し、日常的に買い物や散歩時の会話や農産物を頂くなど、地域との良好な関係を築いているが、コロナ禍に配慮して、現在は外出やボランティアの受け入れ、ホームの行事への住民参加等は自粛しており、地域のイベントも殆どが中止になっている。周辺の散歩時の会話や農産物の差し入れ、民生委員の来訪があり、住民から寄せられる高齢者福祉や認知症ケアに関する相談に助言する等の交流は継続している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	新型コロナ感染予防対策をしっかりと行い、市民館で「オレンジカフェ・認知症の適切な対応」を開催市民の参加者とグループワークで意見交換を行った。認知症ボート養成講座を市の消防団を対象に行った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ感染予防のため、今年度の会議も、行政のみの参加となっている。事業所の活動内容報告をし積極的に意見や地域の情報を頂いている。	会議は、書面会議への変更も行いながら開催しているが、コロナ禍に配慮して最近ではホームの職員と市担当職員とで開催している。利用者の状況やホームの運営、行事、感染症対応等を議題に、意見や情報を交わしており、寄せられた意見や情報はケア会議で検討して業務やサービスの改善に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時に報告をおこなったり、市の主催する研修会に参加した時など、情報交換し、助言など頂いている	市の担当者には運営推進会議でホームの状況の理解を得ている。介護保険の更新や各種制度の申請、報告、感染症予防に関連する協議等を窓口や電話で行い、指導や助言をもらうなど、日頃から協力関係を築いている。、市主催のリモートによる会議や研修にも参加し、同法人の事業所とも情報交換して運営及びサービスの向上を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に身体拘束委員会があり、委員が会議に参加し他事業所と情報交換できている。入居者様の症状に応じて対応しているので身体拘束はしていない。	身体拘束の防止については運営規定や利用契約書に明記し、法人による計画的な研修の実施で認識を共有している。適正化を図る指針を整備し委員会も年4回開催すると共に、日常的に身体拘束や高齢者虐待、権利擁護に関する意見交換やケアの振り返りを行って、拘束をしないケアに取り組んでいる。昼間は施錠しないで外出したが利用者には対話や寄り添い等で気持ちの安定を図り、職員の不適切な発言等には、その都度、注意や助言をし合って改善に努めている	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を未然に防ぐことが出来るように職員同士で、遠慮せず、正直な気持ちを話せるような事業所づくりを目指している。外部研修にも参加し、伝達研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で権利擁護に関する勉強会をおこなっている。権利擁護の指針を理解し、入居者様の権利を阻害しないように取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に重要事項説明書をもとに説明を行っている。急変時の対応や長期入院時の対応などは家族面会時などで話をし、ご理解を図っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回 居室担当がご家族へ入居者様の状況報告を行い、意見を伺い、ケア会議などで情報の共有をし検討している	利用者や家族には気軽に意見を出しやすい様に日頃から配慮している。利用者の思いは日常の会話や表情、仕草等で理解し、家族からの意見、要望は面会（コロナ禍により窓越しで実施）や電話、手紙等で把握している。居室担当職員による毎月の状況報告や園便りでも実状を伝えながら意見を貰うように取り組んでおり、出された意見、要望はケア会議等で協議して改善を図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談を行っており、意見交換を行っている。運営はケア会議で職員間で意見を出し合い、職場環境作りに生かしている	管理者及び職員は日頃から信頼関係の構築に努めており、日常の業務の中や申し送り、ケア会議時に意見や要望を出し合い、また、定期（年3回）の個別面談も行っており、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。職員は年度初めに目標管理ノートを作成してスキルアップに努めており、管理者はケアに対する助言・指導を行い、研修の実施や勤務シフトに休暇の取得や個人的事情に配慮し、職員の資格取得へのバックアップ等に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課などを実施し、勤務状態の評価をし、個人面談時に向上心をもてるように配慮しながら本人にも話をしたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の個性や能力・得意とすることを把握し、法人内外の研修計画を立てている。また年度はじめに「目標管理シート」を作成して取り組んでいる</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域で行われる研修会に職員を参加させ、市内の他事業所の職員とも顔見知りの関係ができる時間をつくっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所開始からすぐには、信頼関係を築くことは難しい事を家族に説明し、ご理解・協力をお願いしている。職員にも入居者様の不安な気持ちを傾聴し、寄り添うよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に、家族の今までの経緯や困りごとなど聞くようにしているが、不安な気持ちや思いは変化していくのでその都度話してもらえるような信頼関係の構築を心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向を確認しながら、無理のない様にスムーズにサービスが提供出来る様にしている。入居する事でいい距離感ができて、よりよい関係性に戻られるよう気を付けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を尊重し、職員の事を受け入れてもらえるよう日々努力している。信頼関係のもとにできることは職員と一緒にしてもらい「ありがとう」「助かっています」の気持ちを伝える様にしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所されたことで、関係性が薄くならない様に、電話やたよりなどで近況報告し、協力をお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、施設内での生活が中心となっているが、ご本人が大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れない様に会話の内容に入れたりしている。	利用者毎の馴染みの情報を共有し、周辺の散歩や買い物、一時帰宅、通院、墓参等を家族の協力を得ながら支援してきているが、現在はコロナ禍に配慮して外食、外泊、墓参等は控えている。共通の馴染みの場や地域の祭り等を日頃の話題にしたり、家族との窓越しの面会や電話、手紙の取り次ぎ、担当職員による毎月の状況報告、園便りの送付等の取り組みで、関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の関係性を大事にし、職員間で情報共有しながら、席の配置を考えている。気分の変動がみられる時は職員が関わるように心がけている		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時にいままでの関わりに感謝していることを伝えるようにしている。退去されても、関係性を大切にしていきたいことを伝えている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との日々の会話の中から希望を把握し、本人本位の考え方をもとに職員間で検討している。家族にも相談し協力をお願いしたりしている	日頃から利用者との対話や寄り添いに努め、発語が困難な利用者からは仕草、独自のサイン等から思いを汲み取り、状況によっては家族の意向も確認しながら、安全で生きがいのある暮らしになるよう取り組んでいる。利用者の意向に沿って懐かしい音楽やテレビの視聴、ぬり絵、菜園の手入れや野菜収穫、食材の下処理、テーブル拭き等の取り組みを、体調や残存能力に配慮しながら個別に支援し、それらの成果には評価や感謝の言葉を添えている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書の把握をし、入居者様・家族との関わりの中で知り得た情報も職員間で共有出来る様にケア会議などで話し合っている		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの個性を大切に、日々の関わりの中で「気づいたこと」を共有し、活かせることが出来る様にしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の要望を中心に考え、家族に確認しながら、職員の意見を参考にし介護計画を作成している。また担当職員も設け、サービス提供確認や評価ができるよう努めている	介護計画には、利用者や家族の思いを日頃の関わりの中や電話等で把握し、主治医の指示や個別ケア会議、3か月毎のモニタリングでの職員の意見を基に残存機能や習慣、楽しみ事等にも配慮して作成している。利用者の心身の変化に応じて計画を変更し家族の理解も得て支援しており、ケアの実施状況は「業務日誌」や「申し送りノート」等で共有している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送り、連絡ノートを活用し、職員間で情報共有に努め、サービス内容の振り返りや介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況変化に対応できるように、職員間でサービス内容の検討をし、様々な意見をもとに柔軟な支援が出来る様に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため、地域との交流が出来ていないが、自宅だけではなく、生まれた地域の把握をし、市報などで地域の情報を伝えるようにしている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の関係性を大切に、本人・家族の意向によりかかりつけ医を決めてもらっている。必要に応じて、受診支援もおこなっている	本人・家族が希望する医療機関での治療を支援しており、殆んどの利用者が協力医療機関を主治医としている。定期的な訪問診療（月2～3回）や通院が実施され、薬剤師の来訪による説明も受けており、受診の結果は「往診ノート」で共有している。協力医療機関とは日頃から密に連携し、衛生や健康管理に努めており、健康状態は家族にも密に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に些細な事も相談し、助言をもらっている。またかかりつけ病院の看護師との情報交換の窓口になってもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は当該病院の相談員と連絡をとり、情報提供をしたり、状態把握に努めている。本人・家族にも連携していることを伝え、不安な気持ちが軽減出来る様取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、リスク説明の中で終末期の要望を確認し事業所での取り組みを説明し、ご理解をもらっている。関わりの中で終末期のあり方についても変化が見られると思うので、柔軟な支援が出来る様にし、チームで取り組めるように情報共有に努めている	重度化や看取りの対応については、入所時に利用者及び家族にリスク説明の中で理解を得ている。入所後は利用者の状態変化に応じて終末期のケアを含む説明や話し合いを実施し、ホームで可能なケアを希望に沿って取り組んでいる。看取りについては、これまで実施は無く、最終段階で特別養護老人ホームへの入所や医療機関につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は定期的に勉強会を開催し、確認している。また年2回の防災訓練時に救命訓練を計画し参加している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回 避難訓練を行っている。夜間発生時の緊急連絡の訓練は行っているが、人員の少ない時の避難については職員間で検討している。海岸沿いでもあり、桜島も近いため、火山噴火時の対応や津波発生時の訓練を机上にておこなった。</p>	<p>夜間発生を想定した災害訓練を年2回（コロナ禍で消防署立ち合いは無い）隣接の小規模多機能ホーム、グループホームとの3事業所合同で実施し、通報や消火器、発電機の取扱い等も研修している。日頃から避難経路や消火器の設置場所等を確認し、桜島噴火や津波発生シミュレーションも行って、防災への認識を共有している。スプリンクラーや自動通報装置が設置され、懐中電灯、ラジオ、カセットコンロ等を備え、3日分の食料（コメ、缶詰、即席めん他）や飲料水を備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの人格を大切にし、生活歴も様々であることを認識し、理解しながら対応することを心がけている	個人情報やプライバシーの保護については重要事項や運営規定、利用契約書に明記され、日頃からケアの振り返りや意見交換等に努めて認識を共有している。利用者の個性、習慣等にも配慮しながら自己決定を尊重した支援に努めており、ホームの浴室やトイレ、居室等はプライバシーに配慮した構造になっている。衣服の着脱や排泄、入浴時の声掛け等は羞恥心にも配慮して適切な言葉遣いやトーンに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望を日々の関わりの中から引き出し、自己決定を促し、実現できるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の1日の流れはあるが、パーソンセンタードケアの履行を念頭に、その方のペースで過ごせるよう職員間で共通の認識を持ち取り組んでいる		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	衣服は本人に選んでいただいているが、選べない・わからない時はサポートしている。散髪はコロナ禍のため、施設内でおこなってもらっているが、本人の希望をきいて、伝える様にしている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけを入居者様と一緒にこなしている。畑の野菜の収穫から下ごしらえ、調理の手伝いも手伝ってもらったりしており、感謝の気持ちを伝える様にしている	利用者の好みや形態、季節感、盛り付け等に配慮し、菜園の野菜や頂いた果物等も活用して調理している。お節や敬老会等の行事食や手作りのおやつ、誕生日やクリスマスのケーキ、屋台風の設定での焼きそばやお好み焼き、流しラーメン等、食事が楽しみなものとなるよう工夫しており、利用者も日常的に野菜の収穫や食材の下処理、後片付け、テーブル拭き等を行っている。コロナ禍に配慮して外食や家族との会食等は自粛している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューにおいてが、管理栄養士の指導を受け、食事の提供を行っている。1日分の食事・水分摂取量を記録し、少ない方には、飲食物の工夫をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、本人が出来る方は自己にておこなってもらい、最後に確認するようにしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護記録に排泄状況を記録し、パターンを理解する事で、失敗を防ぐことが出来、本人の自信にもつながっている。できるだけトイレで排泄する取り組みをし実行している	各利用者の排泄パターンを把握し、身体の状態や習慣に配慮した声掛け等で、可能な限りトイレでの排泄を支援して排泄機能の維持に努めている。夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もいる。個々の状態に応じた介護用品やケアの方法を介護計画に反映させて改善を図っており、介護用品の減少やリハパンから布パンツへの改善もみられている。便秘の予防に繊維の多い食材やオリゴ糖、水分の摂取、運動量、腹部マッサージ等を配慮し、主治医にも相談しながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録により、排便の状態を把握している。水分量の確認や腹部のマッサージ、オリゴ糖を使用したりして早めの対応に努めている。排便困難な方にはかかりつけ医に相談し薬剤を使用し体調管理に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は楽しみの時間になっているため、本人の希望、ペースに合わせて入浴出来る様に支援している。	基本週2～3回の入浴を支援しているが、必要時には、その都度、清拭や洗浄で保清している。温度や時間、順番、同性介助等は意向に沿って柔軟に対応し、入浴剤や複数介助も取り入れながら個浴でゆっくり楽しんでもらい、入浴後は水分補給や軟膏塗布を支援している。入浴をためらう利用者には無理強いしないで、足浴への変更や時間、声かけ等を工夫し、利用者の意欲を汲み取りながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを記録し、睡眠状態を把握できるようにしている。不眠・不穏のある方は無理強いせず本人のペースを大事にすることを心がけている		
47		○服薬支援  一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は事務所でしている。スタッフが複数で確認し、与薬時には本人と確認するよう取り組んでいる。処方内容も確認し、変更時は申し送りノートに記載し情報の共有が出来る様にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の意向を大事にし、職員間で情報共有、検討し出来る事を取組んでもらうようにしている。ご本人にあった「役割」が見いだせるように努めている		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防対策をしっかりとし、ドライブ程度ではあるが外出している。屋外の散歩は天候次第で毎日おこなっている。	利用者の状態に応じて歩行介助しながら園庭での日光浴や周辺の散歩、野菜の収穫、花壇の花を眺める等を日常的に行っているが、コロナ禍に配慮して外泊、外食、墓参等は控えている。感染予防対策を徹底してドライブを兼ねた初詣の実施や季節の花や街並みを車窓から楽しんでいる。外出の機会が減少している状況が続いている為、室内での軽い体操やゲーム、昔の音楽やビデオの視聴等を工夫してリフレッシュを図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を所持している方もおられるが、現在は買い物に行けていない状況である。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご本人の希望時は、電話支援している。家族からの郵便の受け渡しも行っている。手紙のやり取りを希望される方はいませんが、声掛けし希望時は支援していきます</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節や天候を考えながら快適な空間づくりを心がけています。またレクリエーションで作成した季節にあった工作进行し、季節感を感じられる様に工夫している</p>	<p>利用者が昼間の殆どを過ごしているリビングは、天窓が設けられて明るく余裕あるスペースが確保されている。季節感のある利用者の作品や活花等が飾られ調理の音や臭いが伝わるなど和やかで落ち着いた雰囲気になっている。自宅同様に落ち着ける和室もあり、利用者の動線に配慮してテーブルセット、ソファ、テレビ等が設置されている。園庭からは錦江湾や桜島が望め、菜園やプランターには季節の野菜や花が植えてある。清掃や空調、整理整頓を徹底して快適に過ごせる環境になっており、利用者は自由で穏やかな日々を過ごしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>和室やソファを利用して、気の合う方々で過ごせる時間がつくれるように配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所前に本人・家族と相談し、自宅で使用されていた物やこだわりの物など持ってきていただき本人が落ち着いて過ごせるようにしている。また本人が安全に移動できるようにレイアウトも考えている</p>	<p>余裕あるスペースの居室はフローリングの床に腰高窓が設置され明るく、エアコン、ベッド、タンス、ナースコールが備えられている。利用者は家庭で長年愛用していた寝具やテレビ、家族写真、衣装ケース、遺影、位牌等を持ち込み、自身が作成した貼り絵等の作品や誕生祝の造花も飾って、家庭同様に落ち着ける環境になっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの能力に応じて、居室の工夫をしたりホールの空間を快適で安全な場所になるように工夫している。トイレの場所もわかりやすいように表示している</p>		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない